

- 1) 水疱性魚鱗癬様紅皮症は、サイトケラチン1ないし10の遺伝子異常
- 3) 葉状魚鱗癬は、トランスグルタミナーゼ1の遺伝子異常
- 4) 伴性劣性魚鱗癬は、X染色体上のステロイドスルファターゼの遺伝子異常

7月5日

光に関して正しい記述を選べ。(1つ)・・・授業プリント、p194、197

訂正しました。

- 1) 窓ガラスは大部分のUVAをカットする。
- 2) 皮膚にSPF5のサンスクリーン剤を適量塗布すれば、約8時間の夏季直射日光暴露でも紅斑を生じない。
- 3) 皮膚に対する紫外線照射後の紅斑のピークは照射後48時間前後である。
- 4) 可視光の大部分は皮膚表面、つまり角質層で散乱され、それ以下に届きにくい。

答え：3

解説：

- 1) UVAは波長が長く、窓ガラスも通り抜ける。窓ガラスでカットされるのはUVB。
- 2) SPF5では、長期の夏季直射日光暴露に対抗できない。
- 3) 光貼付試験では、照射48時間後に判定をする。→紅斑のピークと考えるとよい。
(日焼けでは、光線照射数時間後に、照射部に一致して紅斑が生じ、12～24時間後をピークとして以後症状は軽くなっていく。)
- 4) 可視光は波長が長いので、透過性が高い。

慢性光線性皮膚炎(CAD)で正しいものはどれか?・・・p198

(選択肢をすべて書き写せなかつたので答えのみ)

- 1) 高齢男性に好発する
 - 2) 紅皮症に至ることがある
 - 3) 作用波長の主体はUVBであることが多い
- 答え：全部
- 解説：
- 1) 中年以上の男性に好発する。
 - 2) 露出部に、慢性に経過する難治性の湿疹性病変がみられるが、なかには紅皮症に移行するものもある。
 - 3) この疾患では、UVBのMEDが著名に低下。UVAや可視光線のMEDも低下する例がある。

7月12日

適切な組み合わせはどれか?・・・p409、412

- 1) Hodgkin病—間欠熱
- 2) Sezary症候群—紅皮症
- 3) 菌状患肉症—皮膚腫瘍

- 4) 慢性リンパ性白血病—肝・脾腫

答え：全部

解説：

- 2) Sezary症候群の3主徴として、紅皮症、表在リンパ節腫脹、末梢血での異型リンパ球出現がある。
- 3) 菌状患肉症は皮膚の悪性腫瘍の一つである。

菌状患肉症の治療について記せ(100字以内)・・・p409～411

解答例：皆さんに提供できるような100字以内の良い解答例をつくれませんでした。ごめんなさい。下に治療において大事だと思われることを書きました。授業プリントにも詳しく治療法が記載されています。皆さん各自でオリジナルの解答をつくってみてください。

MFは、皮膚の形態によって紅斑期、扁平浸潤期、腫瘍期の3期に分類される。

基本的な治療の流れは「ステロイド外用＋紫外線療法→電子線照射、インターフェロン投与→化学療法」の順に分類期に合わせて。

ただし、①MFは数十年と長期にわたって進行していく疾患であること、②さらに早期発見、治療を行っても、そうしなかった患者さんと予後にそんなに変わりがない。これらのことから、早期の軽微な症状のときから、放射線治療や化学療法は原則行わない。

扁平浸潤期までの病変には、PUVAなどの紫外線療法(光線療法)である程度の進行を抑制する。このほかにも、ステロイド外用やインターフェロン投与などを行う。

腫瘍期などの進行例に対しては、電子線照射や化学療法(CHOP療法など)を行う。

最近では、光線力学的療法も試みられている。

7月13日

ベーチェット病で見られるものは次のうちどれか?(2つ)・・・授業プリント「紅斑」

p7、p145

- 1) ツベルクリン反応陰性
- 2) 血清抗核抗体陽性
- 3) 血清アンギオテンシン変換酵素高値
- 4) 針反応陽性
- 5) HLA-B51陽性

解答：4、5

解説：

- 4) ベーチェット病の場合、注射針穿刺部位に一致して、24～48時間後に小膿疱を生じる。これが針反応陽性。70%の症例で陽性を呈する。

- 5) ベーチェット病はHLA-B51と強い相関がある。日本人に多い。

25歳男性。仕事中にガス爆発がおき、救急車で搬送。顔面・上肢・胸部にⅢ度の